



能登やさしいこめづくり情報

中干し・除草編

**田植え後1か月経過したら、
中干し開始で品質向上！！**

令和5年5月
能登米振興協議会
能登米生産者協議会
能登南部営農推進協議会
J A は く い

1 生育概況

- ・5月29日の生育調査の結果、順調に分げつ増加が進んでおりますので、引き続き浅水管理を徹底ください。
- ・6月は気温の高い日が多いと見込まれますので、中干しの開始時期が遅れないよう注意しましょう！

【参考 生育調査結果(5月29日現在)】

品 種	草 丈 (cm)			㎡当たり茎数(本/㎡)			株当たり茎数(本/株)			葉 齢 (枚)		
	本年	前年%	平年%	本年	前年%	平年%	本年	前年%	平年%	本年	前年%	平年%
コシヒカリ	24.8	100	102	127	142	98	7.2	149	105	5.6	107	95
ゆめみづほ	21.6	98	100	145	145	121	7.9	144	120	6.3	113	102
ひやくまん穀	25.3	123	105	87	102	100	4.8	102	101	5.4	103	103

2 中干し適期開始について

『中干し』は米の品質や収量を左右する**重要な管理作業**の1つです。

中干しの効果

- ・無駄な分げつの発生を抑制し、過繁茂を防ぎます。
- ・秋の実りに働く根が発達し、根の活力が高まります。
- ・過剰な窒素の取り込みを抑制し、倒伏を防ぎます。
- ・田面が固くなり、秋にコンバインで収穫しやすくなります。



乳白粒(白未熟粒)やくず米の発生減少



乳白粒 (白未熟粒)

◆中干し開始までの水管理

- ・浅水管理(水深1~3cm)で分げつの発生を促します

早期に有効茎(充実した穂となる茎)を確保するため、浅水管理(水深1~3cm)で水温・地温を高めましょう。

- ・晴天時には「軽い田干し」を行い、中干しの開始に備えましょう

軽い田干しとは土の表面が乾かない程度に通排水することで、特に有害ガス(わき)が多いほ場では積極的に実施してください。用水の利用が限られる場合は、用水を利用できる前日に干すなど、計画的に行ってください。

◆中干しの実施

田植え後1か月中干し開始！

- ・中干し開始時期の目安

品 種	開始時期		終了時期	開始時期判断の注意点
	1株当たり茎数	平年		
早生品種	16本	6/7頃	6/25頃	①田植え後1か月、または、②左記の茎数に達した時期のいずれか早い方にあわせて実施し、額縁や滞水する箇所には溝切りを実施してください
コシヒカリ	14本	6/5頃	7/5頃	
ひやくまん穀	14本	6/5頃	7/15頃	
(根拠)	目標穂数 ^{早生 24本} _{他 21本} の70%時点		幼穂形成期	



【中干し開始の目安の株】



【中干しの遅れ】



【中干し実施なし】

・中干しの程度

ほ場条件	程度と方法	開始時期と継続期間	注意点
一般田	田面に小さなヒビが入り軽く足跡が付く程度	※前記のとおり	葉色が濃い場合や分げつの発生が止まらない場合は、期間を超えて中干しを継続してください。
高地力田・湿田・生育過剰田	強め（大きなヒビを入れない程度）	一般田よりやや早めに開始、やや遅めに終了	
漏水田・砂質田・用水不足地域	田干し程度	一般田と同様	

◆溝切り作業の実施

溝切りの効果

- ・迅速な通排水ができ、中干しの効果が高まります。
- ・登熟期に迅速なかん水ができ、飽水管理を手助けします。



- ・溝切りは、額縁及び10条に1本の割合で実施し、溝と溝、溝と排水口（水尻口）は、しっかりと連結しましょう。
- ・田面をある程度固く（落水2～3日後）してから溝を切り、6月中旬頃に同じところを再度切り直しましょう。

3 中間追肥の施用

中能登の問題

- ・高温や日照不足等の異常気象が続発傾向
- ・稲体が異常気象に強くなるためのリン酸やケイ酸が少ない

収量・品質の低下要因につながる

対策!! 異常気象に強い稲体づくりのため、**中間追肥を必ず施用しましょう!**

施用時期	肥料名	施用量	効果
6月中旬～下旬	PK けいさん (0-13-11 ケイ酸 17)	40 kg/10a	<ul style="list-style-type: none"> ・基肥一発肥料のリン酸・カリの供給補正 ・稲体が強固になり、病虫害抵抗性や耐倒伏性が向上 ・根張りや受光体勢が良くなり、登熟が向上
	エスアイ加里 カリ投げくん	4 kg/10a (200g×20個) ※5cm以上の湛水で施用	

※「BB けい酸パワー・コシー発くん」やケイ酸入りの土づくり資材を施用していない場合は必ず施用しましょう。

4 ほ場周辺の雑草地の除草

◆除草の徹底によりカメムシ生息数を減らし、斑点米被害を未然に防ぎましょう!

- ・斑点米カメムシ類による品質低下が、能登産米の大きな課題となっています。斑点米による落等を未然に防ぐため、農道や雑草地の除草を徹底し、斑点米カメムシの生息場所をなくしておくことが重要です。

ポイント1 斑点米カメムシの生息数を減らすため、6月中にほ場周辺の草刈りを徹底!

ポイント2 7月上旬に仕上げの除草を実施! **一斉除草週間:7月4日(火)～7月10日(月)**

ポイント3 7月11日以降は除草しない! (※頻繁に除草している場合に限り、継続除草は可能。)

※7月中旬以降の除草は、カメムシをほ場内へ追い込む事になります。やむを得ず除草する際は、薬剤防除直前に行いましょう。

5 中・後期除草剤使用について

- ・カメムシの侵入抑制のため、ほ場内にも雑草が残らないようにしましょう。

対象雑草名	除草剤名	散布量	使用時期・方法
ノビエ、ミズガヤツリ、ウリカワ、オモダカ、クログワイ 等	アトリ1キロ粒剤 1成分	1kg/10a	湛水散布(7日間止め水)、移植後14日(稲5葉期)～ノビエ4葉期(収穫45日前まで)
ノビエ	ヒエクリーン1キロ粒剤 1成分	1kg/10a	湛水散布(7日間止め水)、移植後15日～ノビエ4葉期(収穫45日前まで)
マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、オモダカ 等	バサグラン粒剤 1成分	3～4 kg/10a	落水して散布(スポット処理可能) 、移植後15～55日(収穫60日前まで)

6 その他注意事項

- ・補植用苗のほ場内放置は、いもち病の発生源となるので、早急にほ場から取り除き、処分してください。
- ・病虫害や雑草が発生した際には、随時防除対応が必要となります。能登米栽培こよみに無い農薬の使用にあたっては、最寄りのJAもしくは中能登農林総合事務所にご相談ください。